

## ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

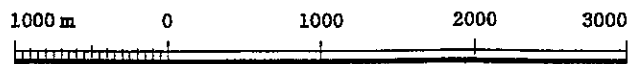
栃木県土木部建築課

# 調査位置案内図



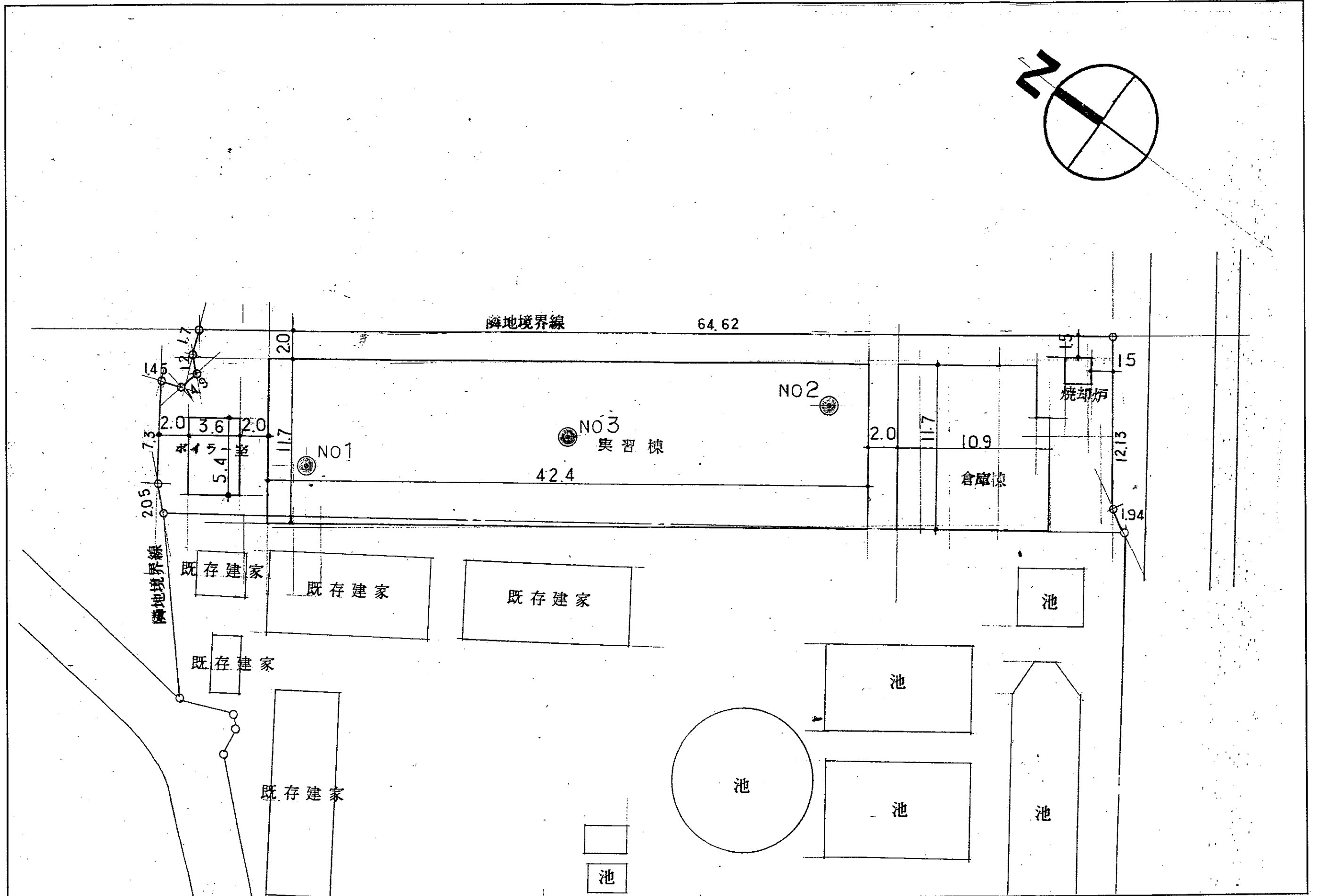
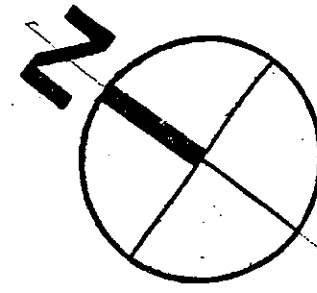
調査位置： ●

S=1:50,000



調査位置平面図

縮尺： 1 / 250



# ボーリング柱状図

調査名 馬頭高校水産科実習棟新築その他工事に伴う地質調査

## 事業・工事名

ボーリングNo.																
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ボーリング名	№ B - 1			調査位置	栃木県那須郡馬頭町久那瀬字沢内下 1 5 6 8				北緯
発注機関	栃木県大田原土木事務所				調査期間	平成 7 年 5 月 日 ~ 7 年 5 月 日			東経
調査業者名	主任技師				現場代理人	ア コ 鑑定者			ボーリング グ責任者
孔口標高					H = -0.99m				
総掘進長	15.20m				エンジン	Y a n n a , N F - 9 0 型 ポンプ			K a n o , V - 6 型

シートNo.

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠度	相対密度	記述	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験		試験採取		掘進月日
										10cm 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	深度 (m)	試験名および結果	試験料番号	採取方法	
1	0.90	0.90	埋土	黒灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	4.15	4 3 2	9 30	1.15	9			
2	0.90	1.20	表土	暗灰				砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	4.40	6 7 6	19 30	5.15	19			
3	3.95	3.95	玉石混り砂礫	暗灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	5.45	13 37	50 15	6.00	50			
4	5.15	5.15	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	6.15	50 5	50 3	7.00	50			
5	10.05	10.05	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	7.05	50 5	50 3	8.00	50			
6	11.05	11.05	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	8.03	50 1	50 1	9.00	50			
7	12.00	12.00	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	9.01	50 1	50 1	10.00	50			
8	13.17	13.17	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	10.01	50 5	50 5	11.00	50			
9	14.00	14.00	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	11.05	45 5	50 11	12.00	50			
10	14.19	14.19	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	12.11	20 30	50 17	13.17	50			
11	15.20	15.20	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	13.17	22 28	50 19	14.00	50			
12	17.33	17.33	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	14.19	17 33	50 20	15.00	50			
13	18.75	18.75	軟岩	暗青灰				角礫主体の埋土で、Maxφ≤150mm 位置を含む岩砕かなる。 砂質シルト主体にφ=10~30mmの 礫石を中層に混入する。 Maxφ≤200mm位の玉石を含む亜円形礫主体の層である。 マトリックスは、砂~細礫主体である。 GL - 1.2~2.5m位、φ=20~50mmの礫主体で、相対密度=中位の状態を呈し、崩壊性を伴う。 GL - 2.5~4.0m位、Maxφ≤200mm位の礫分優勢で、相対密度=非常に密な状態である。 GL - 4.0~5.15m位、φ=100~200mmの玉石優勢で、空隙多	15.20	15 20	50 75					

# ボーリング柱状図

馬頭高校水産科実習棟新築その他工事に伴う 地質調査

ボーリングNo.	
----------	--

## 事業・工事名

ボーリング名	No. B - 2		調査位置	栃木県那須郡馬頭町久那瀬字渋内下 1 5 6 8		緯	北	
発注機関	栃木県大田原土木事務所		調査期間	平成 7 年 5 月 日 ~ 7 年 5 月 日		経	東	
調査業者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング		
孔口標高			使用機種			ハンマー落下用具		[63.5Kg] コーンフ・ーリー
総掘進長	8.01m	角	180° 上 0° 下	方	北	K a n o , Y a n m a , N F - 9 0 型		
		度	90°	向	西	K a n o , V - 6 型		

シートNo.

標尺 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試験採取 試料番号	室内試験 ( )	掘進 月 日
								深度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値					
-0.90	0.90	埋土	黒灰				角礫主体の埋土で、Max φ ≤ 150mm位を含む岩片からなる。シルト主体で φ = 1.0mm位の礫混入する。GLより2m位、φ = 200mm位の玉石も存在する。Max φ = 100mm位の角礫を含む埋土層下部に中粒砂層がある。全体的に細砂を混入し、φ = 5~10mmの円礫を含む。Max φ = 200mm位の玉石を含む埋土層と中礫主体の砂層である。マトリック스는、砂・細礫主体である。GLより4.0~5.0m位、粗粒礫層で空隙多い。相対密度 = 非常に密な状態である。	1.15	6	34	40	60				
-1.45	0.55	表土	暗灰					1.35	1	1	1	1				
-2.00	0.55	砂礫	暗青灰					2.15	1	1	1	1				
-3.00	1.00	砂礫	黒褐					2.75	60	40	10	90	75			
-4.90	1.90	玉石混り砂礫	暗灰					3.15	12	15	23	50	30			
								3.35	35	15	3	50	13			
								4.15	40	10	1	50	11			
								4.45	50	10	1	50	10			
								5.15	50	10	1	50	10			
								5.28	50	10	1	50	10			
								6.00	50	10	1	50	10			
								6.11	50	10	1	50	10			
								7.00	50	10	1	50	10			
								7.10	50	10	1	50	10			
								8.00	50	10	1	50	10			
								8.01	50	10	1	50	10			

